資料番号	3

令和４年 10 月 19 日
課　名　農林水産局
　　農業経営発展課
担当者　課長　柴山

農林水産物の生産等概況について

１　要旨・目的

県内産農林水産物の生産及び販売の概況を報告する。

２　現状・背景

―

３　概要

(1)　調査対象

卸売市場，出荷団体等

(2)　調査期間

令和４年６月～令和４年９月

(3)　調査結果

ア　農産物

(ｱ)　普通作物の生産状況

ａ　水稲

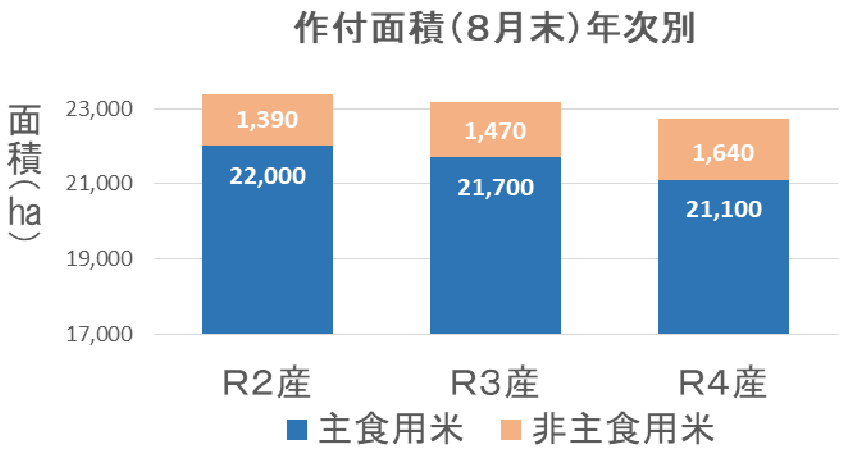
県内の主食用米の作付面積は，前年より約 600ha 減少し 21,100ha と見込んでいる。

９月末現在，主食用米の約５割にあたる早生品種の収穫が終了し，中生品種の収穫が始まっている。

また，非主食用米の作付面積は，飼料用米や加工用米等の増加により，前年に比べ約 160ha 増の約 1,640ha と見込んでいる。このうち飼料用米は，県内の養鶏需要に応じた取組を進めた結果，前年より約 100ha 増え，約 520ha となった。

作柄については，穂数は「やや多い」となり，全体のもみ数は平年並みであったが，登熟（実入り）は，やや不良である。

このことから，９月 25 日現在の作況指数は，100（北部・南部）となっている。



ｂ　大豆

生育は概ね順調であるが，一部の地域において湿害による生育の遅れが生じている。

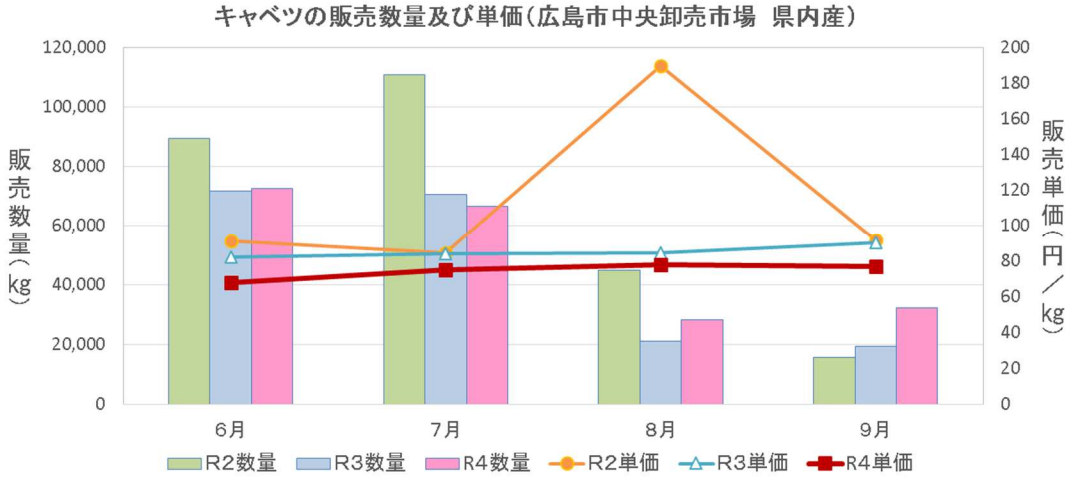
(ｲ)　野菜の生産状況

a　キャベツ

庄原市や北広島町等，主に県北部で生産されたものが流通している。

令和３年度より大規模経営体が契約取引への転換を進めたことにより，市場での県内産販売数量は大きく減少している。

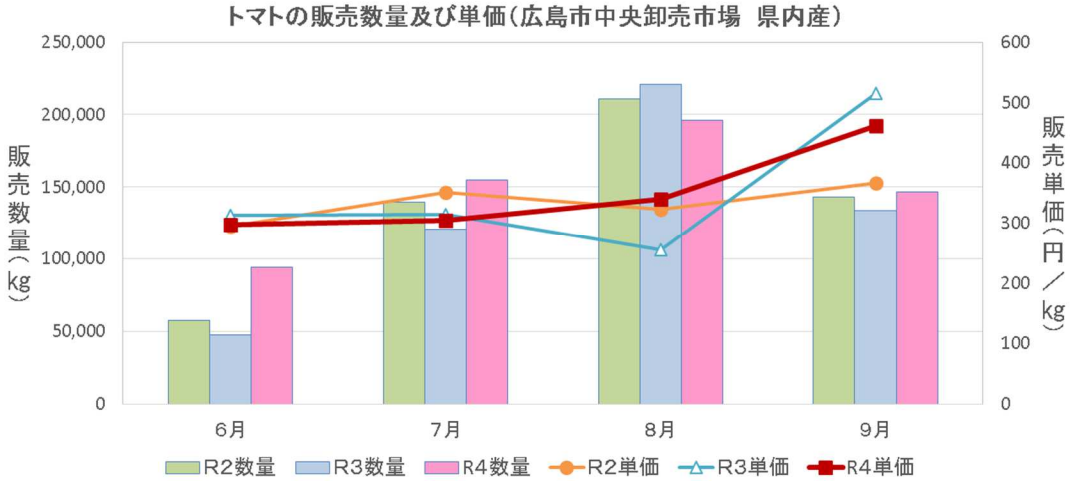
今年度は梅雨時期に少雨であったため，定植遅れや病気の発生も少なく生育は順調である。単価については，概ね平年並みで推移した。



b　トマト

神石高原町や庄原市，北広島町等，主に県北部で生産されたものが流通している。

神石高原町で出荷開始を例年よりも早めた影響もあり，６月の販売数量が大きく増加した。７月以降は販売数量，単価ともに概ね平年並みで推移した。

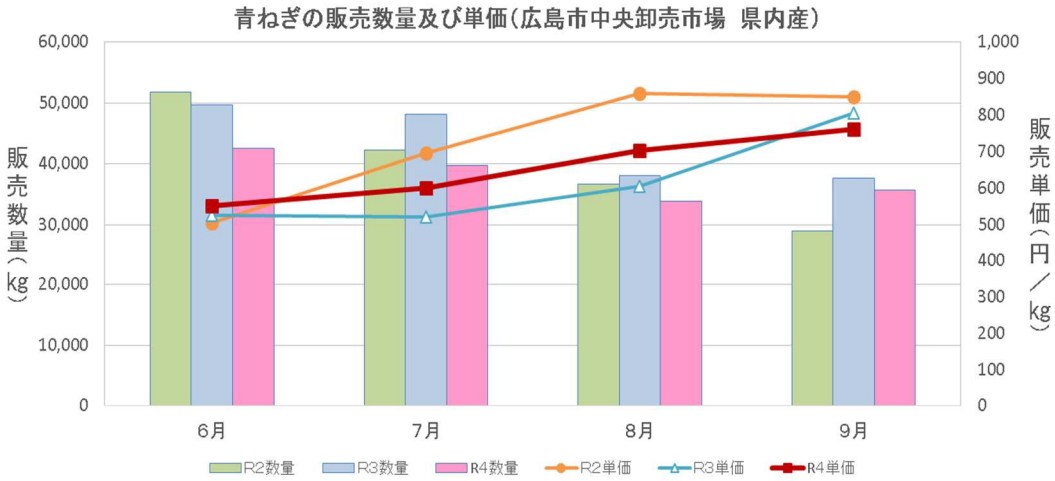


c　青ねぎ

安芸高田市の養液栽培や庄原市等の土耕栽培のものが流通している。

猛暑による軟腐症状の多発等により，販売数量は前年よりも減少傾向で推移した。

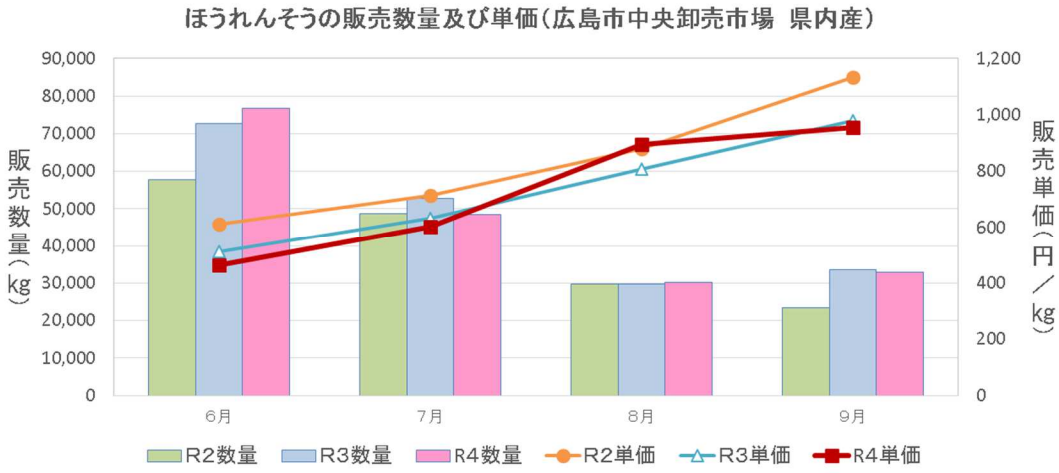
単価は平年並みで推移した。



d　ほうれんそう

主に庄原市や北広島町等の県北部で生産されたものが流通している。

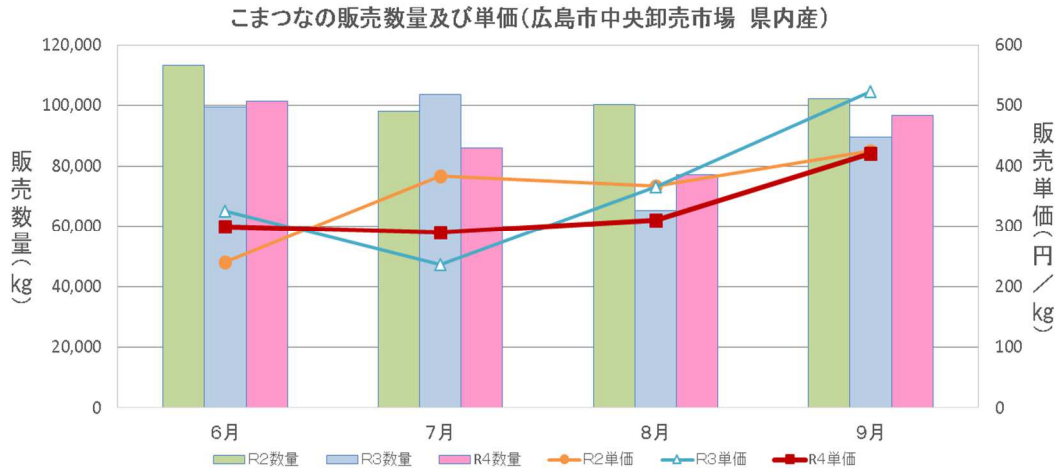
４月，５月の好天により生育は順調で，６月の販売数量は平年よりも増加した。７月以降は販売数量，単価は概ね前年並みで推移した。



e　こまつな

広島市，安芸太田町を中心に生産されたものが入荷している。

生育は順調であるが，安値傾向が数年続いている影響で，他品目への転換等もあり，販売数量は前々年よりも減少傾向で推移している。単価は概ね平年並みで推移した。



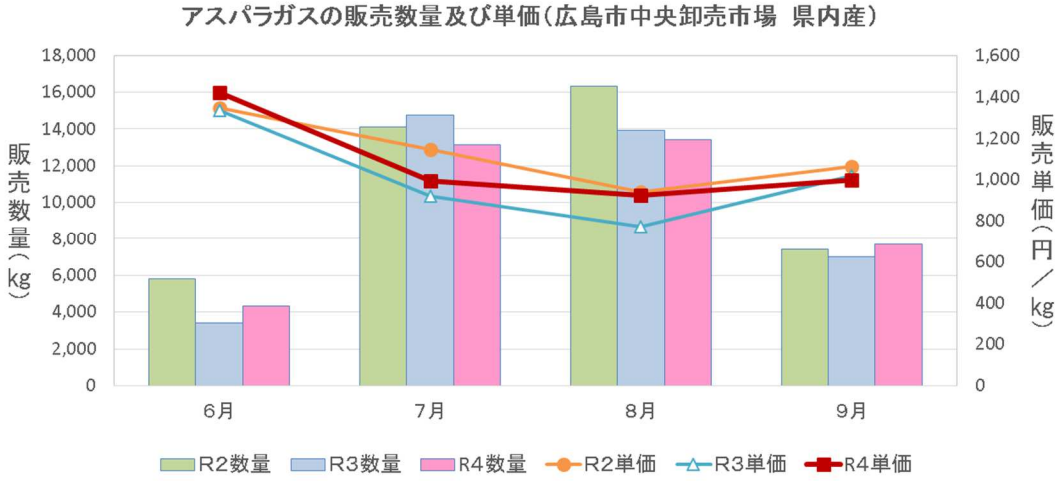
f　アスパラガス

主に三次市や世羅町で生産されたものが流通している。

茎枯病による欠株の発生や，高齢化に伴い販売数量は減少傾向となっている。

一方で，若い担い手の中には，ハウスでの枠板式高畝栽培や，日射比例潅水などの多収技術の導入に取り組む例もある。

単価は，概ね平年並みで推移した。



(ｳ)　果樹の生産状況

a　うんしゅうみかん

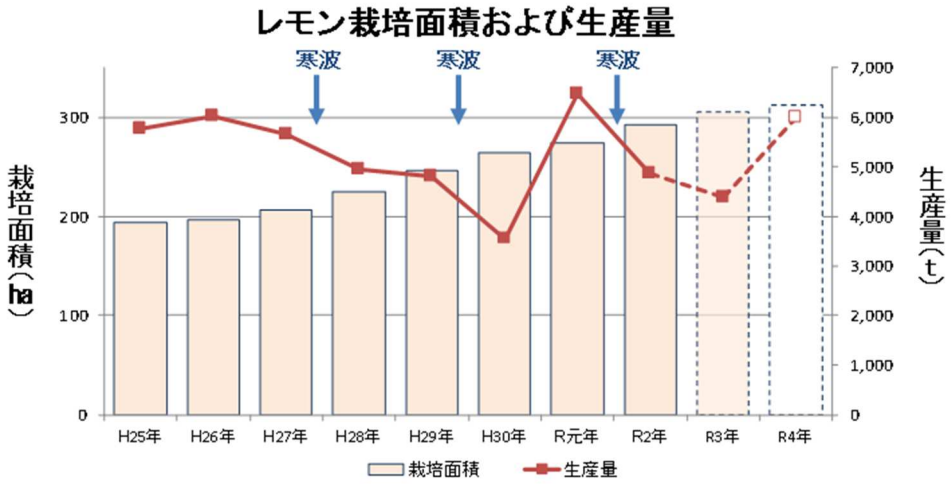
うんしゅうみかんは，10 月 6 日から出荷が開始された。

販売数量は，裏年であることから着果量が少なく，果実肥大は良いものの，前年比 66%の 8,655 t と見込んでいる。

b　レモン

ハウスレモンは，前年より 7 日遅い 6 月 22 日から出荷が開始され，9 月末までの販売数量は，前年比 86%の 37 t であった。

露地栽培のレモンは，10 月 6 日から出荷が開始された。寒波被害から樹勢が回復し，本年産の販売数量は，前年比 136%の 5,998t と見込んでいる。



c　ぶどう

ぶどう全体の販売数量は概ね平年並みで推移している。

シャインマスカットの販売数量は今年も前年より大幅に増加したが，単価の変動は小幅で，需要の拡大傾向が継続しているとみられる。

d　なし

開花期の低温被害がなく平年並みの着果量となったことから，幸水，豊水ともに販売数量は前年よりも大幅に増加した。

中生の豊水は数量増に伴って単価が大きく低下したが，早生の幸水は競合品目が少なく，単価は前年並みとなった。

e　いちじく

少雨による小玉果や，ヤケ果の発生もあったが，収穫期の晴天により腐敗による廃棄は少なく，販売数量は前年比 114%となった。

過去２年に比べて単価は１割程度安値となった。

f　りんご

開花期の低温被害がなく平年並みの着果量となったことから，販売数量は前年より増加すると見込んでいる。

広島県産落葉果樹の販売状況　（令和４年９月末までの累計　ＪＡ広島果実連扱い）

品目（品種）	販売数量			販売単価		
	t	前年比（%）	前々年比（%）	円/kg	前年比（%）	前々年比（%）
ぶどう（ピオーネ）	594	98	93	1,536	102	108
ぶどう（ｼｬｲﾝﾏｽｶｯﾄ）	259	127	140	2,042	92	101
なし（幸水）	332	167	123	441	95	103
なし（豊水）	361	147	134	350	75	71
いちじく（蓬莱柿）	203	114	86	902	87	88

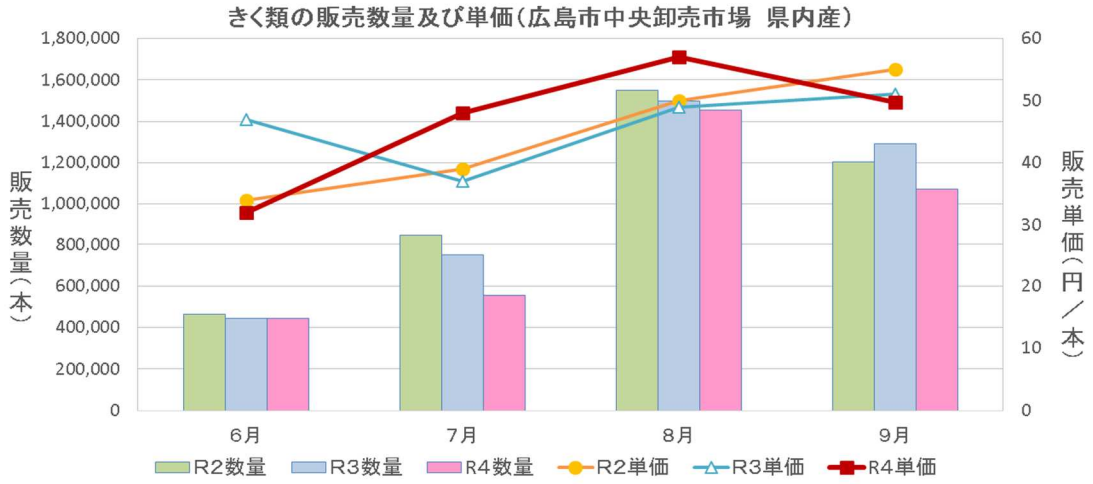
(ｴ)　花きの生産状況

ａ　きく

庄原市，江田島市等から出荷されており，生育は概ね順調であるが，着花の遅れや，害虫による食害で出荷量が減少した生産者もあった。

盆の需要期である７月から８月の販売状況は，全国的な品薄感から高値傾向となった。

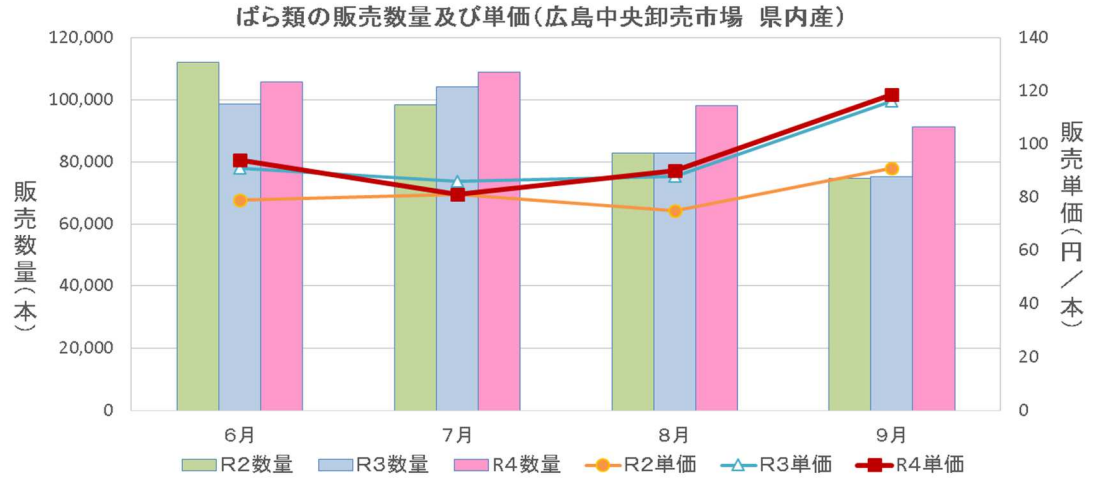
品薄の要因は，生育期に晴天，高温が続いたことにより，中京地区の輪菊や東北地方の小菊といった主産地での着花が遅れ，需要期の出荷が減ったこと，円安により，東南アジアからの輸入が減少したこと等がある。



ｂ　ばら

主に廿日市市，江田島市，呉市から出荷されている。

県内では，ヒートポンプ式空調設備を備えている生産者を中心として順調に出荷され，６月から９月の出荷数量は前年より増加したが，全国的には，高温の影響で通常より花が小さくなる等の生育不良により，市場全体で品薄感があり，販売単価は前年並みとなった。

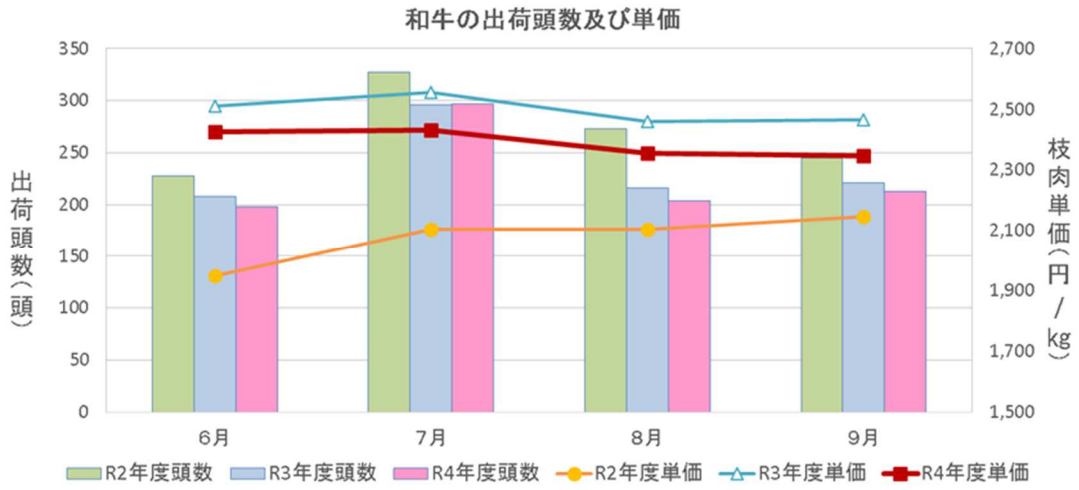


イ　畜産物の生産状況等

(ｱ)　和牛

出荷頭数は，６月から９月まで前年をやや下回って推移している。

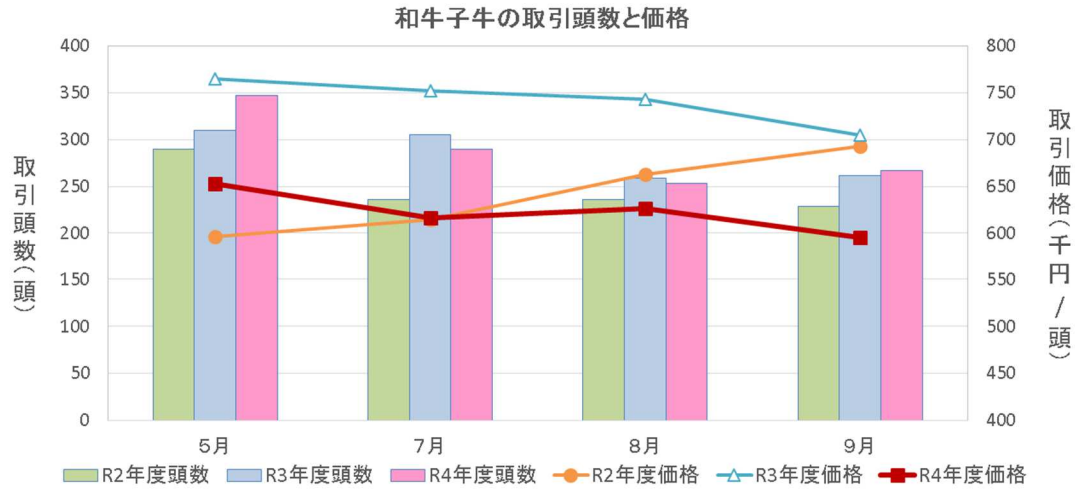
枝肉単価は，新型コロナウイルス感染者の増加による需要の低迷や，相次ぐ物価上昇による消費者の生活防衛意識の高まりから和牛肉の引き合いが弱くなり，前年をやや下回って推移している（前年比 95～96%）。



※　「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は，「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
出荷頭数は全ての和牛（成牛），枝肉単価は和牛去勢Ａ４で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

(ｲ)　和牛子牛

取引単価は，飼料価格等の生産資材高騰や，枝肉単価が下落傾向にあることにより肥育経営体の収支が悪化していること等から，下落傾向にある。

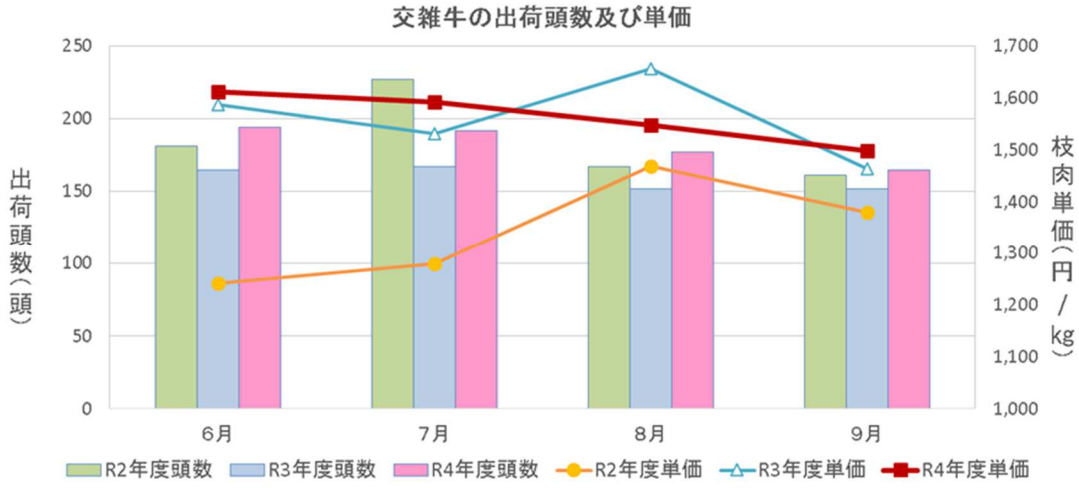


※「肉用子牛取引情報（独立行政法人農畜産業振興機構）」

(ｳ) 交雑牛

出荷頭数は，前年を上回って推移している（前年比 109～118%）。

枝肉単価は，前年をやや上回って推移していたが，８月は，新型コロナウイルス感染者の増加や物価上昇の影響により，量販店や飲食店での需要が低迷し，前年を下回った（前年比 93%）。

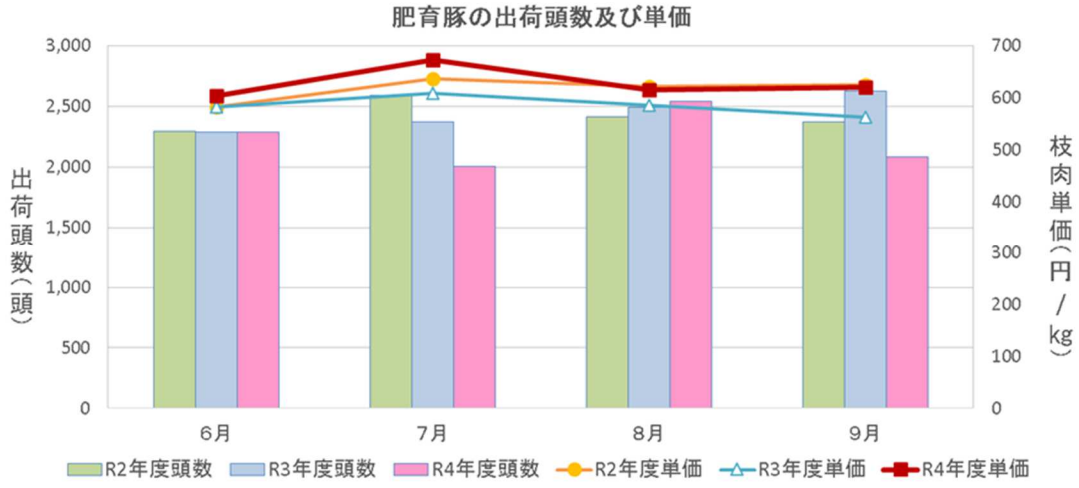


※ 「食肉流通統計」（農林水産省）。直近月は，「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
出荷頭数は全ての交雑牛（成牛），枝肉単価は交雑牛去勢 B3 で何れも広島市中央卸売市場食肉市場。

(ｴ) 豚

出荷頭数は，月により増減はあるが，前年並みで推移している。

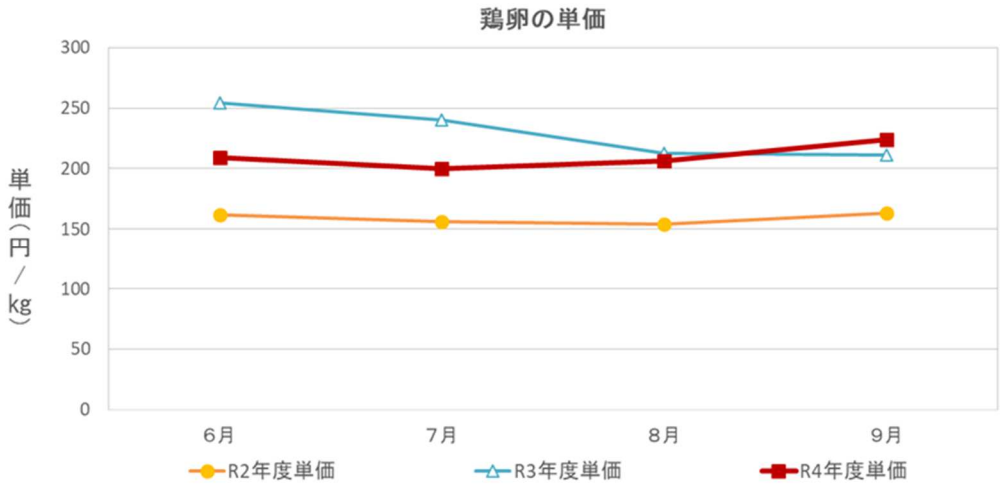
枝肉単価は，物価高騰の影響で相対的に安価な豚肉の需要が増えており，前年を上回って推移している（前年比 105～111%）。



※「広島市中央卸売市場食肉市場」の県内産
※「食肉市況速報」（（公社）日本食肉市場卸売協会）から引用。
枝肉単価は上規格で広島市中央卸売市場食肉市場。

(ｵ)　鶏卵（全農ひろしま　M）

前々年の高病原性鳥インフルエンザの発生で減少した羽数が回復し，供給量が増加したため，６月，７月の単価は前年に比べ約 18%低下した。８月以降は回復傾向となり，９月は外食で月見メニューの展開もあり，単価が前年度より上昇した（前年比 106%）。

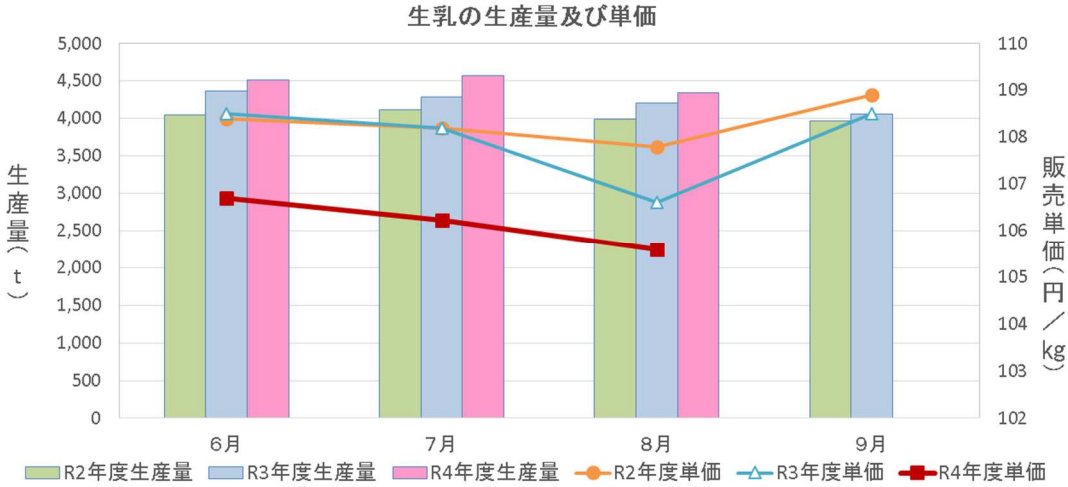


※「全国農業協同組合連合会広島県本部」（M品の単価）

(ｶ)　酪農

生乳生産量は，前年をやや上回って推移している（前年比 103～107%）。

生乳の販売単価は，新型コロナウイルス感染症による飲用乳の需要回復の遅れや全国的な生乳生産量の増加により，前年よりも 1.0～2.0 円/kg 低く推移している。



※生乳生産量は，「牛乳乳製品統計」。乳価は広島県酪農業協同組合聞取りで手取り乳価。

(ｷ)　飼料等価格

配合飼料は，円安の進行及び原油価格等の高騰に加えウクライナ情勢を受けて，令和４年７月～９月期は前期に対し平均トン当り 11,400 円の値上げ（全農系）となった。

その後，トウモロコシのシカゴ相場や海上運賃が値下がりしたことから，令和４年 10 月～12 月期の価格は据え置き（全農系）となった。

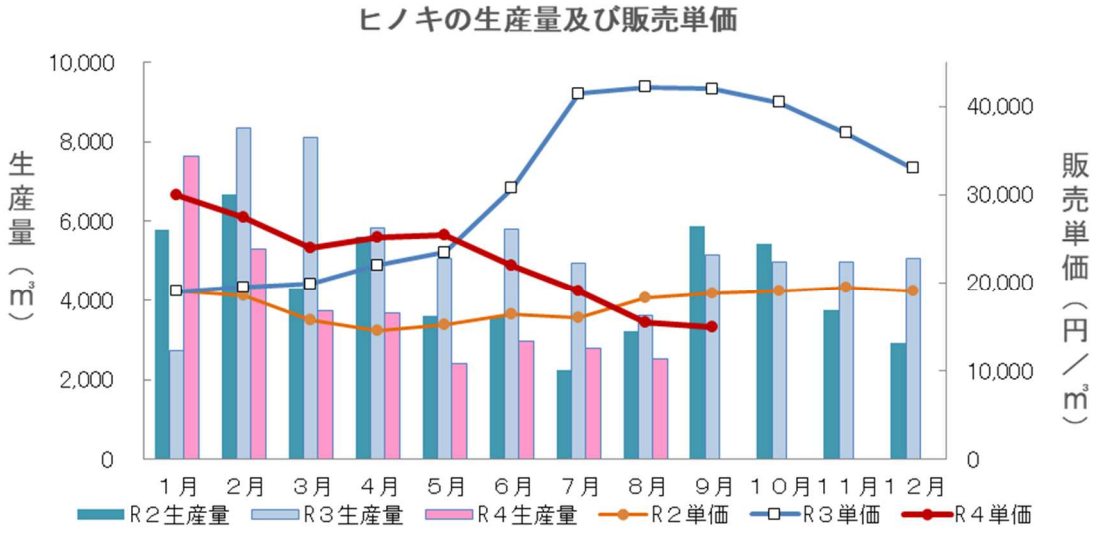
粗飼料についても配合飼料と同様の状況により高騰が続いているが，県内の畜産農家が必要とする量については確保されている。

ウ　林産物

木材の生産状況

ヒノキの販売単価については，隣県の合板工場火災の影響で一部の品目に余剰感が出ていることから，「ウッドショック」のピーク時に比べて値下がり傾向に転じており，生産量についても前年度に比べ減少している。

そのため，木材の価格動向等を注視するとともに，流通コーディネーターと連携した需要先の確保や，国による運搬経費等の支援について，関係団体等に周知を行っている。



※生産量：県内の森林組合におけるヒノキの生産量（林業課調べ）

販売単価：広島県森林組合連合会三次共販所におけるヒノキの販売単価

エ　水産物

(ｱ)　水温

９月上旬の県内海域の表層の水温は 26.4～28.9℃で，平年差は+0.5～+1.4℃であった。

海　域	広島湾	安芸灘	備後灘
９月上旬の水温 平年差	26.6～28.8℃ +0.5～+1.4℃	26.4～26.5℃ +0.6～+1.4℃	27.7～28.9℃ +0.6～+1.2℃

(ｲ)　漁獲状況

a　取扱数量

広島市中央卸売市場における県内産の主要な漁獲物 16 品目の取扱数量は，サワラ，キジハタの２品目で平年を上回っている一方で，多くの品目が平年を下回っている。

b　取扱単価

県内産の取扱単価については，12 品目の魚種で平年を上回った。

広島市中央卸売市場における水産物の販売状況（令和４年７月）

品　目	市場全体						県内産					
	数量			単価			数量			単価		
	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %	t	前年比 %	平年比 %	円/kg	前年比 %	平年比 %
マダイ	45.3	59	90	771	168	99	12.4	39	93	555	179	90
タコ	18.7	68	42	1,658	141	155	10.0	99	53	1,592	134	150
クロダイ	5.1	148	78	353	127	105	4.7	149	80	360	125	104
サワラ	9.9	67	152	1,261	153	125	4.2	63	156	1,244	142	120
サゴシ	9.1	62	47	771	145	119	0.2	24	49	835	140	115
シタビラメ	4.8	83	66	1,158	120	121	2.0	102	49	1,119	116	116
スズキ	7.9	111	65	1,250	130	110	1.8	70	57	891	151	102
キジハタ	1.6	74	69	2,370	123	101	1.3	81	104	2,242	126	101
カワハギ	5.5	89	30	800	80	141	1.1	80	92	1,069	80	97
オコゼ	1.4	54	38	2,485	158	154	0.7	64	45	2,221	144	123
メバル	3.8	85	39	1,837	109	131	0.3	58	8	2,031	134	147
マアジ	70.1	86	75	559	112	105	0.3	106	23	1,342	110	127
アナゴ	19.2	99	69	2,470	123	133	0.2	47	16	1,950	86	100
タチウオ	9.3	35	38	1,653	156	157	0.2	65	2	2,185	122	156
ヒラメ	4.9	78	58	1,993	106	114	0.2	41	26	2,313	97	117
カサゴ	0.4	51	20	915	117	103	0.2	44	21	717	103	87

※平年値は平成 24 年～令和３年の平均

c　煮干共販実績

６月中旬から出荷が始まった煮干し（いりこ，ちりめん）については，９月末現在，共販数量，金額，平均単価とも平年を上回っている。

広島県煮干共販出荷実績（令和４年９月末現在累計）

区　分	数量（ｔ）	金額（千円）	平均単価（円/kg）
令和４年度 （平年比）	1,098 （125%）	1,330,236 （186%）	1,211 （149%）
平　年	877	713,978	814

平年値は平成 24 年～令和３年の平均（９月末累計）

(ｳ)　養殖状況

a　かき養殖

かきの出荷は，平年並みの 10 月１日から順次開始されている。全ての生産者の出荷が出揃うのは 11 月以降を見込んでいる。

b　のり養殖

平年並みの 10 月１日から採苗が行われている。「乾のり」としての出荷は，12 月下旬を見込んでいる。